

## 貝種類

いせのうみの、いせのうみの、きよきなぎさの、志ほがひになのりそやつまんかひやひろはん、玉やひろはん、

〔大和本草介十四〕海蛤 凡蛤ノ種類甚多シ、不可舉記、スベテ海蛤ト云淡菜、蚶、西施舌、蚌、馬刀、貝子、朗光、蛤蜊、蜑、海月、海扇、潮吹貝、自貝、大貝、石ワリ貝、波遊、アサリ貝等、皆蛤ノ類ナリ、地ニヨリ異品アリ、其中ニテ鮑蛤蜊、蚌、西施舌、文蛤蠣、蜑等ハ上品ナリ、其餘ハ多ハ下品ナリ、伊勢ノ桑名、武州江戸、其外處々ノ海ニ多シ、略○中 勢州山田ノ坤ノ方五里、波多瀬ト云處ノ山ニ生蛤アリ、里人アヤシミテ神ニイハヘリ○中 略

螺。類多シ、不可勝計、辛螺、光螺、甲香、刺螺、梵貝、チシャコ、カウカヒ、サマエ、河貝子等皆螺ノ屬ナリ、〔重修本草綱目啓蒙三十一〕蚌○中 略

凡ソ介ノ形長キモノヲ蚌類トシ、形圓ナルヲ蛤類トス、

## 〔本朝食鑑介〕諸蛤貝

集解、凡蛤貝之類不可勝計矣、其漁市海俗所賣貨者有形色、有氣味、辨論有品、若夫至若花貝、梅花貝、櫻貝、千草貝、瞿麥貝、增尾貝、蘇木貝之類者、以形色而名之、盡是空殼隨潮而來、混于沙石也、若忘貝、妹背貝、袖貝、背見貝、片子貝之類者、惟以意趣所寄寓也、身無貝、空世貝者空殼也、若斯之類、皆本朝歌客之艷辭、浮虛不與旦夕供給之事爾、

〔八雲御抄三下〕貝 梅花 櫻 わすれ あま かたし ふところ いたや から みなし  
いそ しほ やく うつせみもなき也、いづれのうらのう あはひ すわう いろ こやす  
〔藻鹽草十三〕貝

花貝 梅花貝 櫻貝 こ貝むれどもいひるふ みやこ貝 ますおの貝又ますおの 小貝とも むらさき貝  
忘貝 ちくさの貝 なでしこ貝 袖貝 われ貝 かたし貝 せみ貝 あま貝 ふな貝